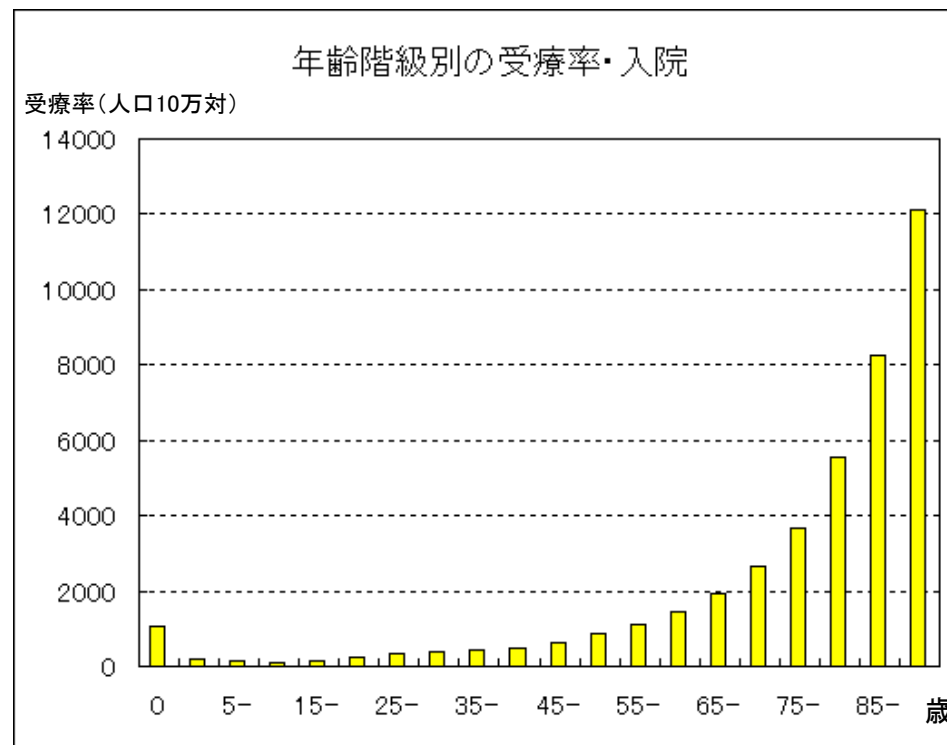
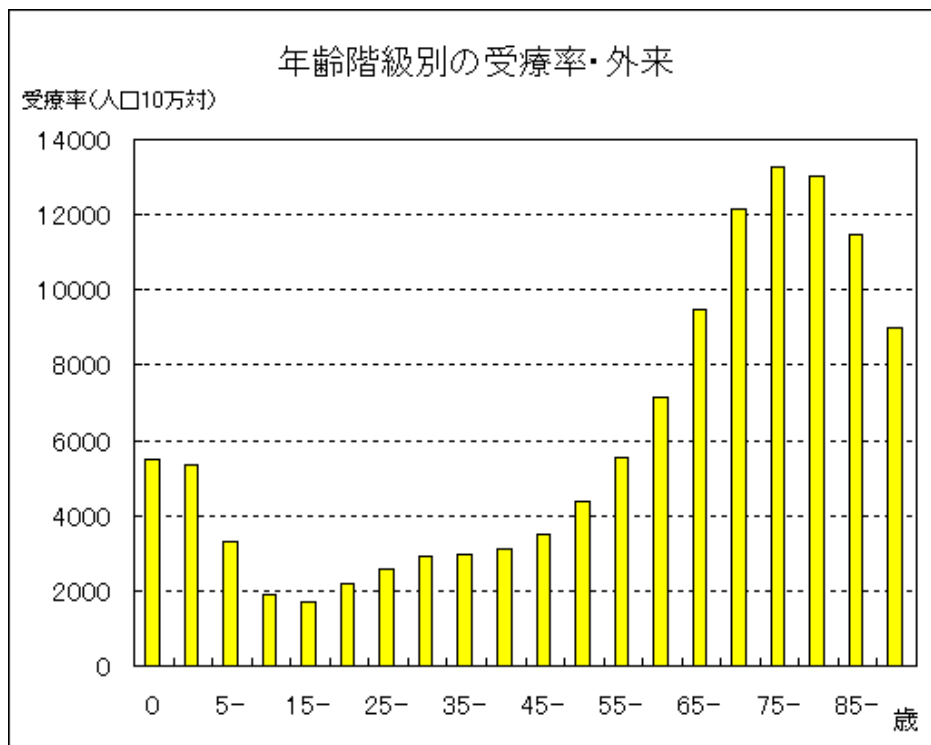


高齢者の心身の特性等について

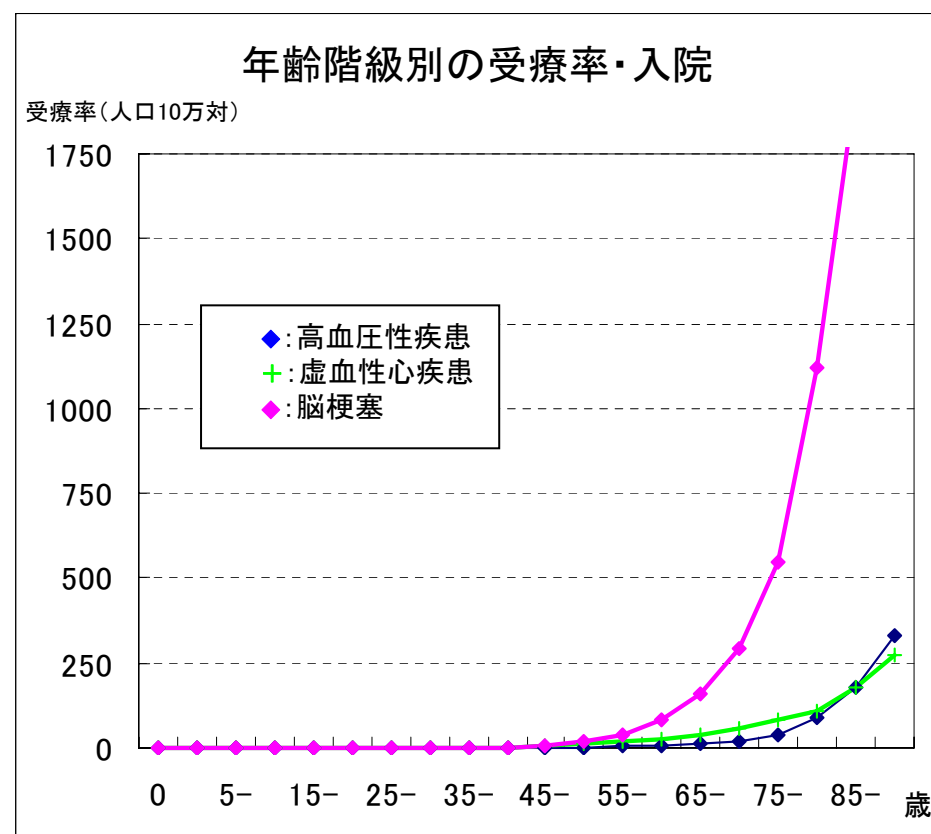
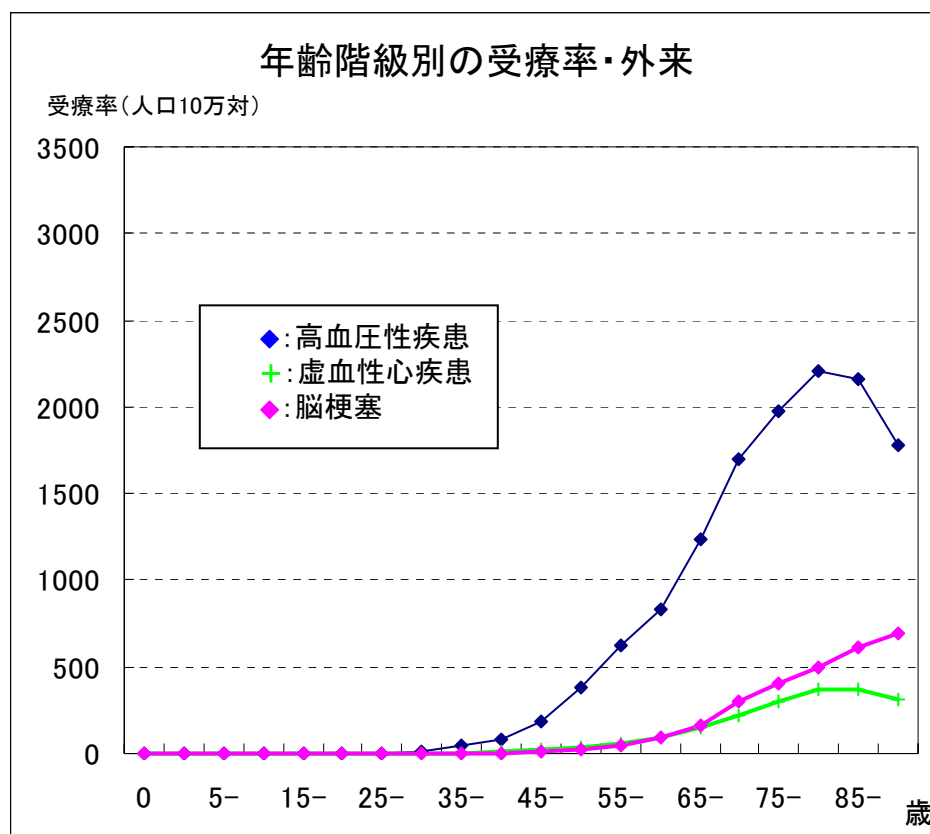
高齢者の心身の特性（疾病特性等）

- 疾病全体で見ると、外来は壮年期から又は加齢に伴い増加するが、入院受療率は後期高齢期になって増加する傾向にある。
- 疾病の中でも、生活習慣病のうち高血圧性疾患、虚血性心疾患、脳梗塞については、こうした傾向が顕著に現れている。
- また、生活習慣病のうち血管性及び詳細不明の認知症やアルツハイマー病は、外来・入院とも後期高齢者になって顕著に増加する傾向がある。



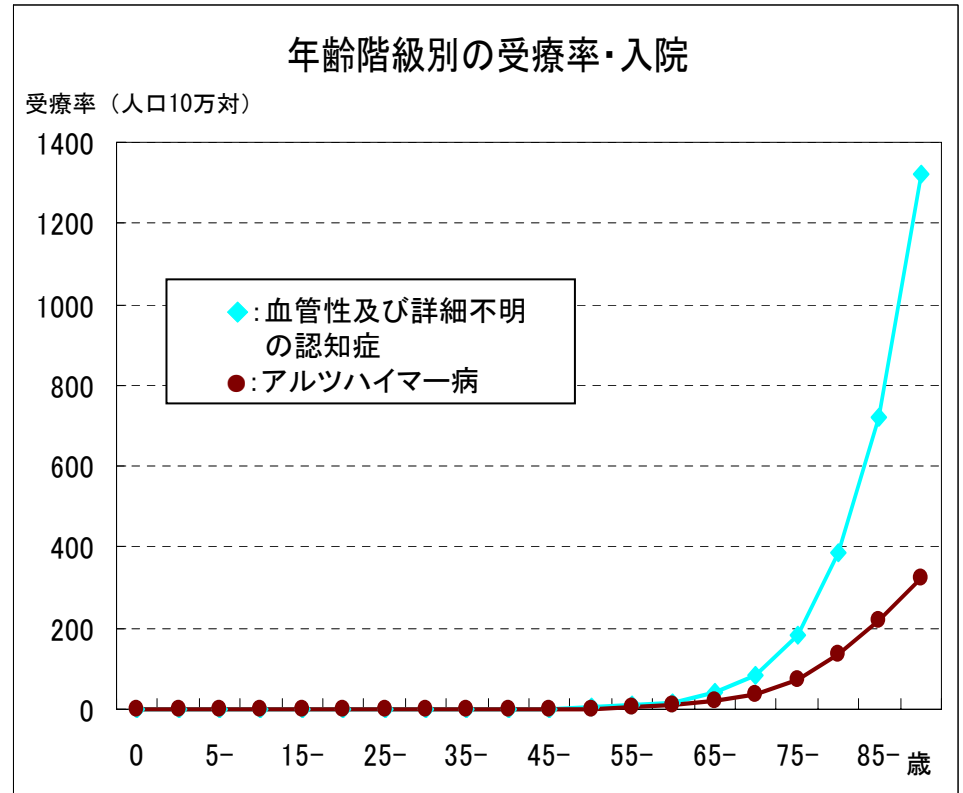
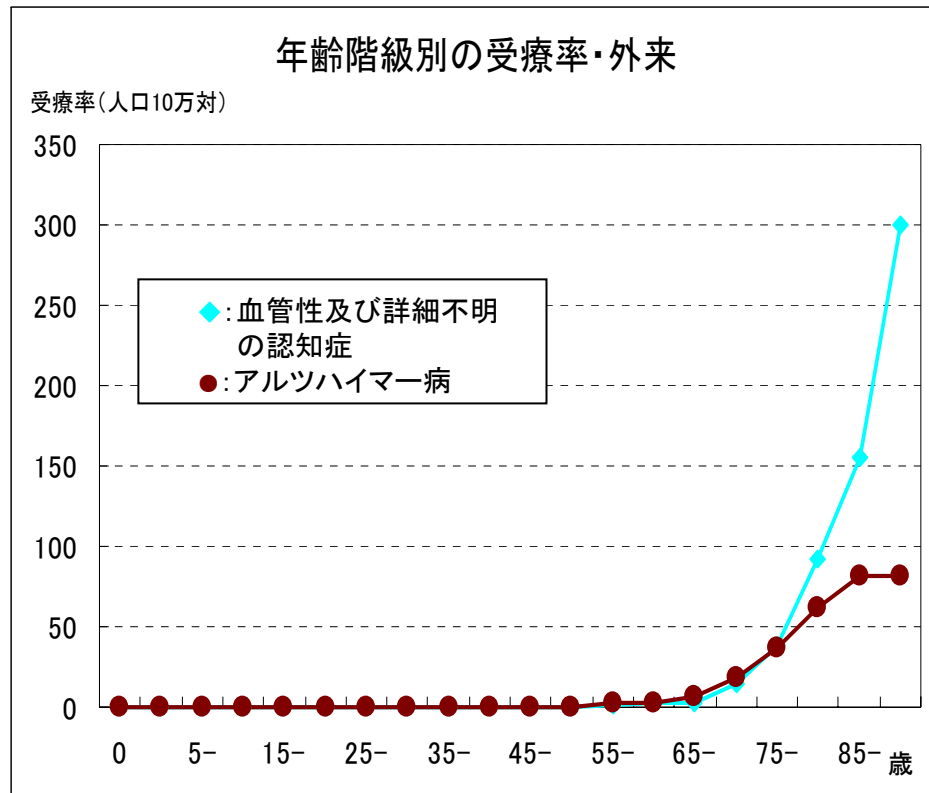
出所) 厚生労働省大臣官房統計情報部「患者調査」(平成14年)

高齢者の心身の特性（疾病特性等）（2）



出所) 厚生労働省大臣官房統計情報部「患者調査」(平成14年)

高齢者の心身の特性（疾病特性等）（3）



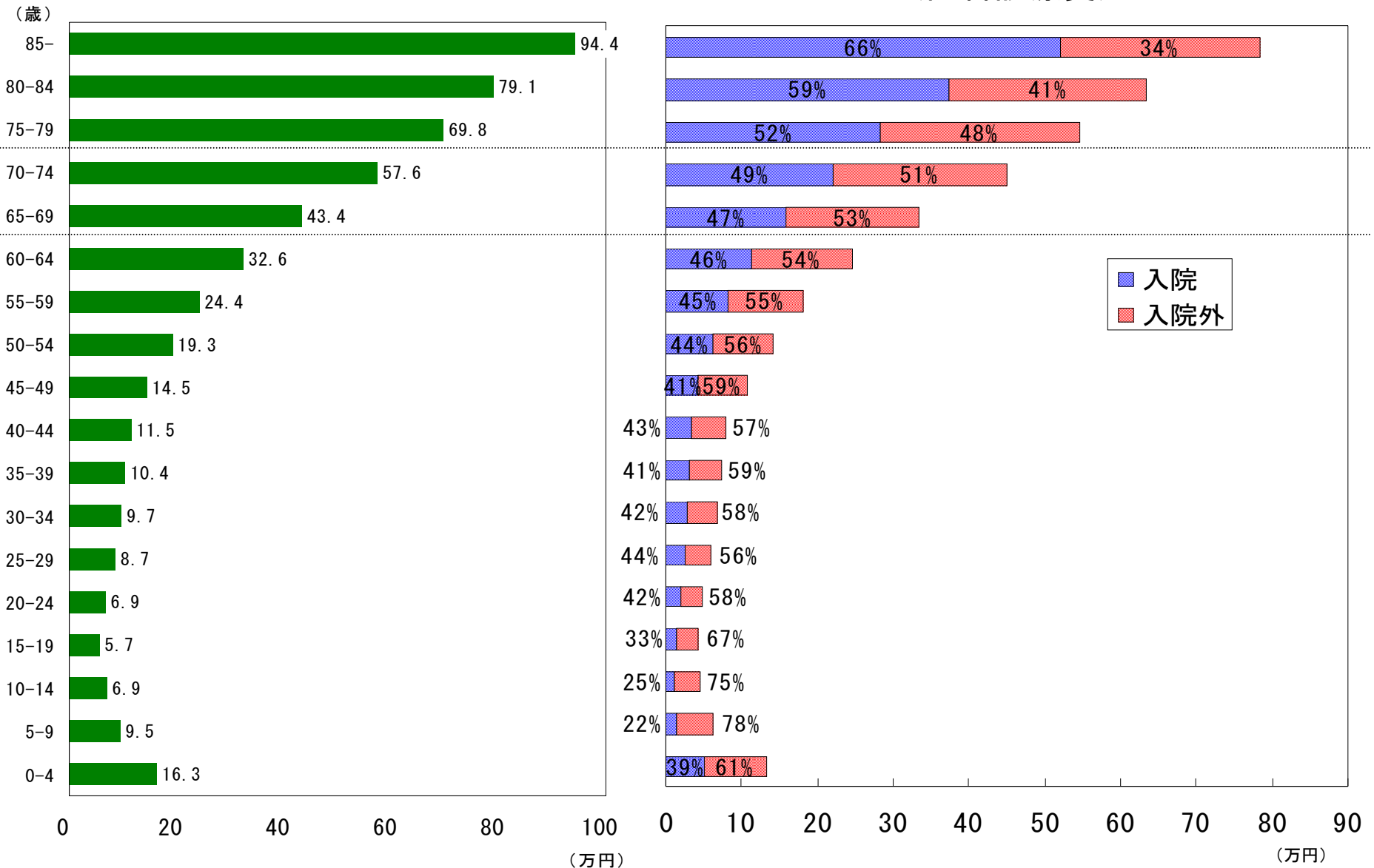
出所) 厚生労働省大臣官房統計情報部「患者調査」(平成14年)

年齢階級別1人当たり医療費(年額)

1人当たり医科診療費を見ると、前期高齢期までは入院より入院外（外来）の方が比率が高いが、後期高齢期に入るとその比率が逆転する。

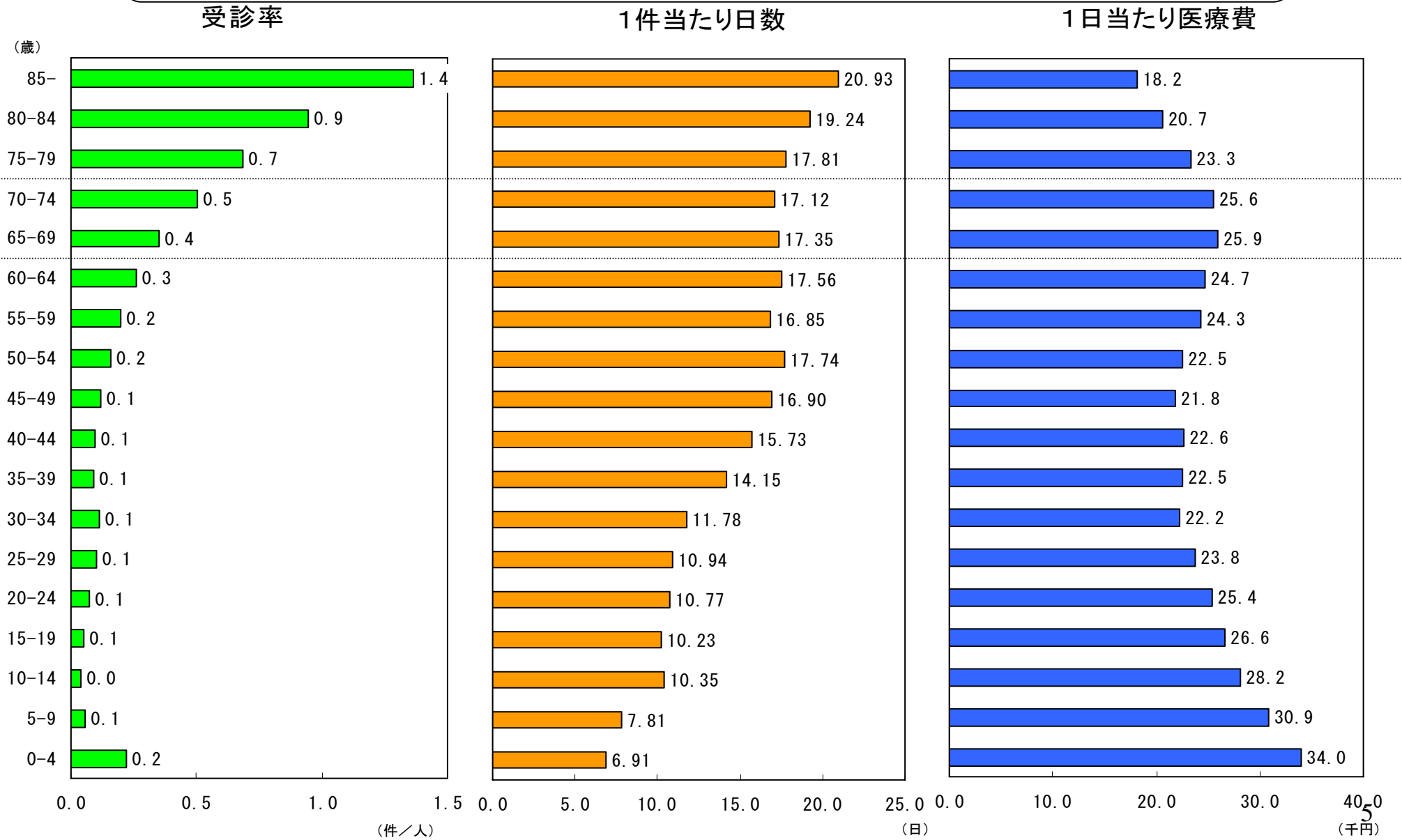
(医療費計)

(医科診療費)



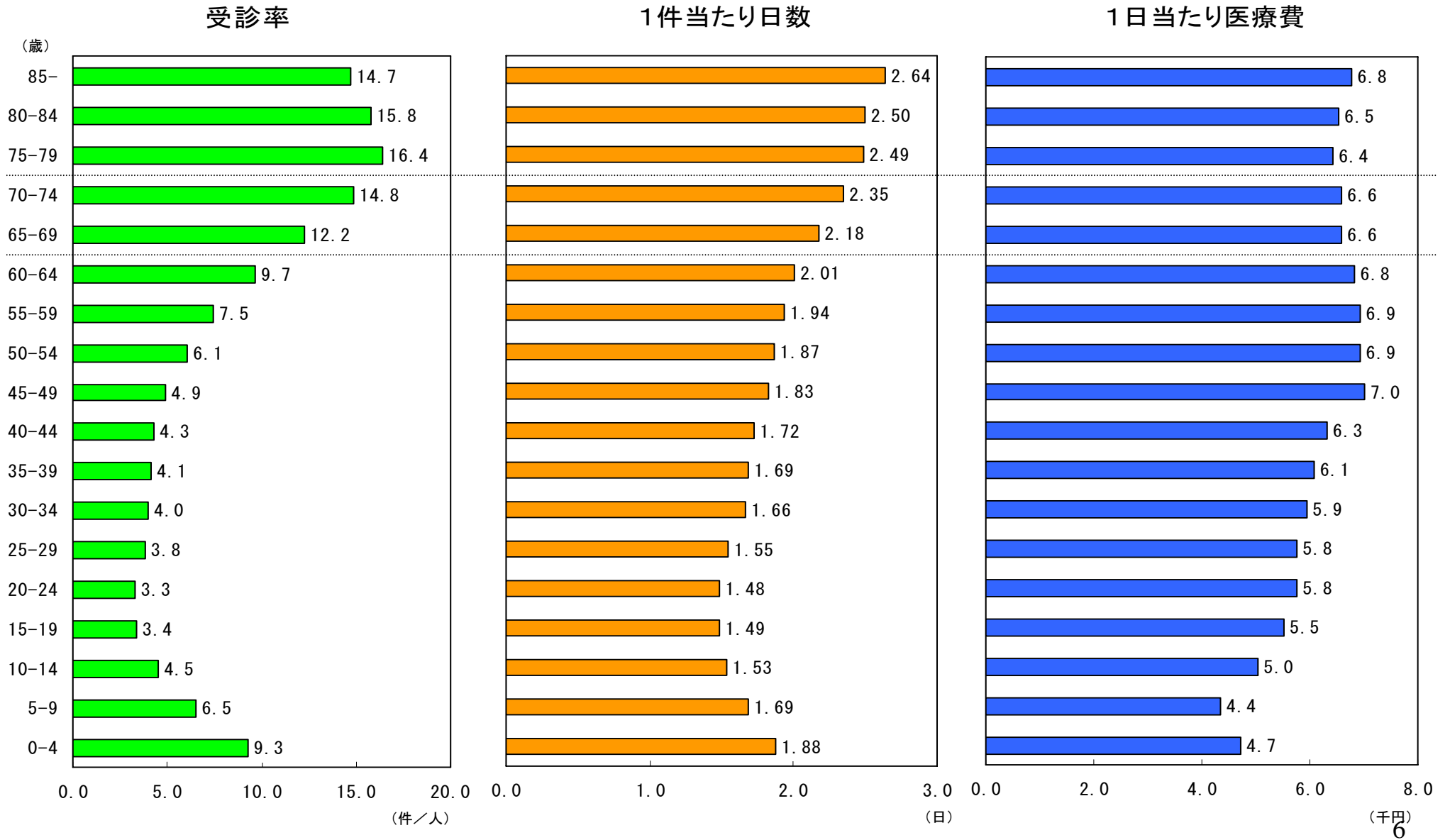
年齢階級別 三要素(入院)

入院医療費について、三要素（受診率、1件当たり日数、1日当たり医療費）に分解して見ると、後期高齢期に入ると受診率が急増するとともに、1件当たり日数が世代間で最も高くなる一方、1日当たり医療費は減少する。



年齢階級別 三要素(入院外)

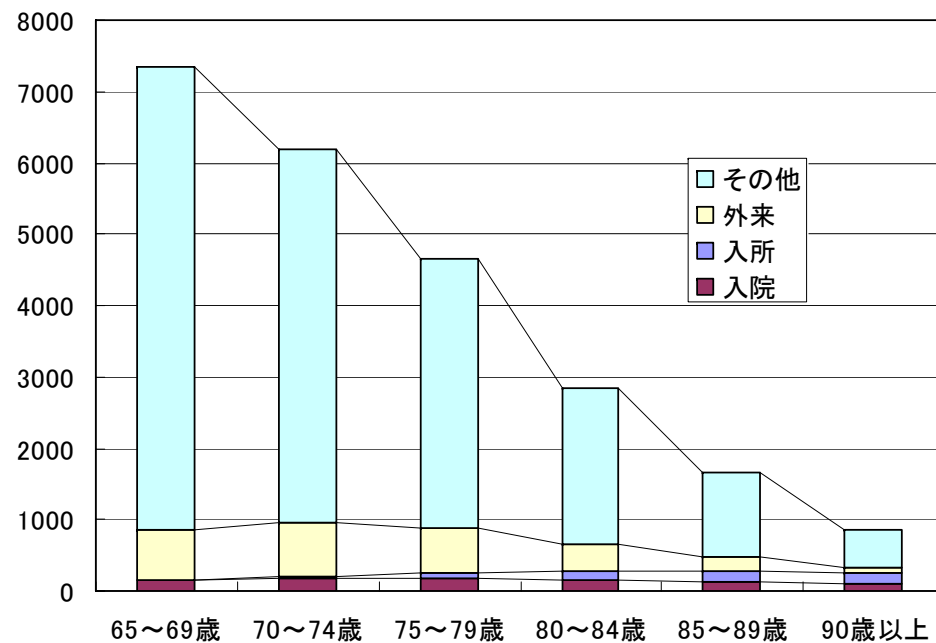
入院外医療費について、三要素（受診率、1件当たり日数、1日当たり医療費）に分解して見ると、年齢が上がるごとに増加していた受診率が、後期高齢期に入ると減少する。



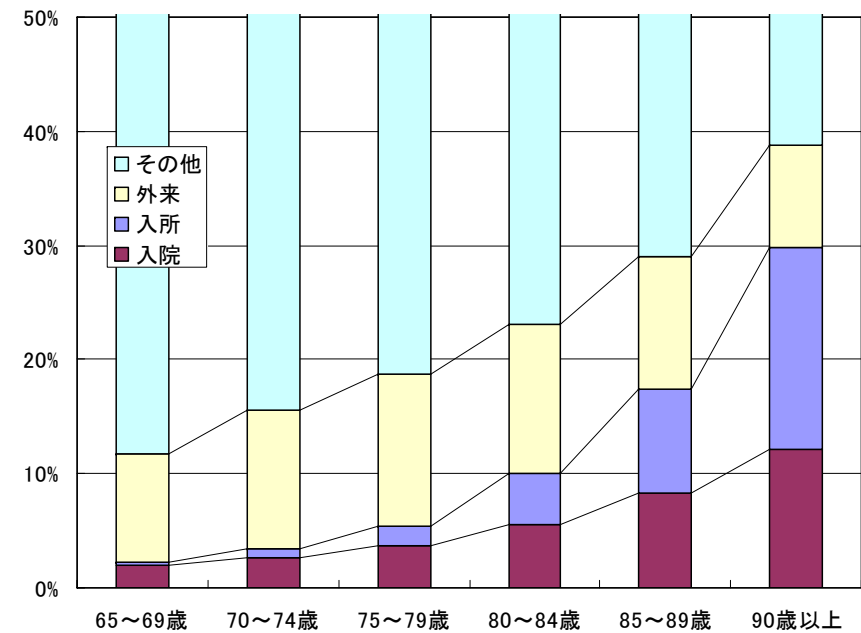
年齢階級別の受療、介護施設入所の状況(65歳以上)

受療、介護施設入所者数

人数(千人)



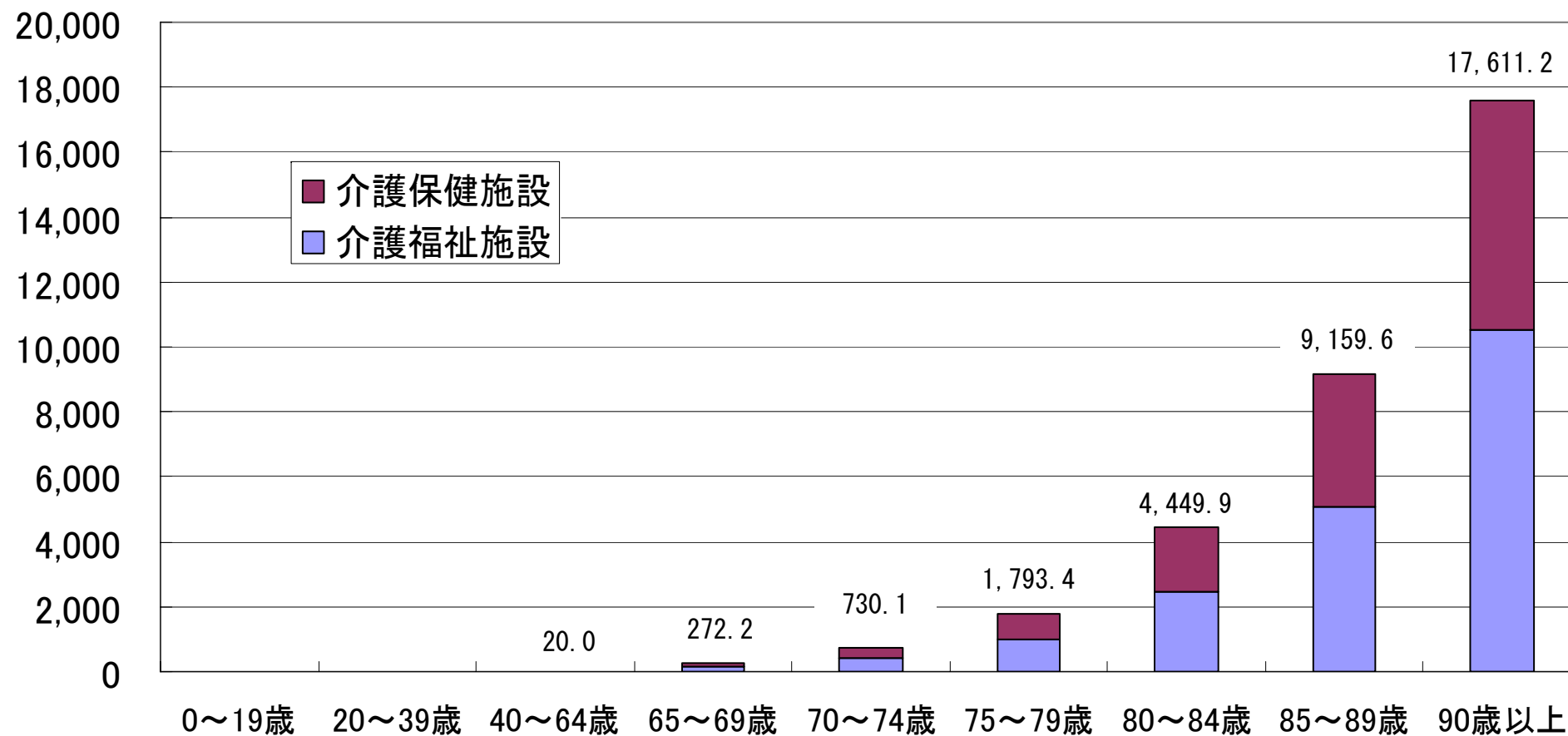
受療、介護施設入所者の割合



出典：厚生労働省統計情報部「患者調査」（平成14年）及び「介護給付費実態調査」（平成14年10月審査分）
並びに総務省統計局「人口推計年報」（平成14年）より厚生労働省保険局医療課において作成

年齢階級別の入所率（介護保健施設・介護福祉施設）

入所率（人口10万対）



資料出所：厚生労働省統計情報部「介護給付費実態調査」（平成14年10月審査分）及び
総務省統計局「人口推計年報」（平成14年）を基に作成